

柿沼清美流剣舞の由来

大幡公民館 門倉 新

この剣舞の起源は古く、幕末（1818）頃、幡羅郡柿沼村で四分一兵右衛門正質という人が高崎在住の馬庭念流の宗家について、剣を修め、免許を得、柿沼の邸内に道場「昭文館」を設け門弟を得た。

後に 1844 年頃には門弟も 200～300 となり、この剣士たちの間で剣道修行のまにまに詩を吟じ、舞いをしたのが始まりで、その名も清く美しくと清美流の名がつけられたという。

その後幾多の盛衰を経てきたが明治、大正時代になってなお道場で行っているのを地区の若者達が見物していたという。一時はうすれて来たようであるが、昭和に入り一人の先輩が若者に伝授し、いろいろな場に出演したという。特に、満州事変や第二次大戦などには出征兵士を送る際に大いに士気を鼓舞したといわれた。

戦後、途絶えてしまった剣舞も昭和の中頃より徐々に復活のきざしが見え、地区の新年会などに棒切れをつかって行われるようになった。

昭和 50 年代になり、柿沼の長い伝統をもつ剣舞を保存させては、と練習が始まる。春秋の村社の祭礼に剣舞を奉納するようになった。現在は地区の有志が集まり、40 数名の会員と共に愛好会を発足し、月二回程の活動をする。88 埼玉博に出演しました。

今後も演技向上を図りながら努力していきたい。

（熊谷市公協だより 第 35 号 平成 13 年より）